

授業科目名・形態	老年看護学福祉実習	実習	必修・選択の別	必修	
担当者氏名	檜原登志子・黒澤繭子・ 石川セツ子・芳賀邦子	開講期	3年前期・後期	単位数	2

【授業の主題】

介護老人福祉施設で生活する高齢者の日常生活援助を通じて、高齢者の身体的・心理的・霊的・社会的特徴についての理解を深める。又、新型特別養護老人ホームで個別化・ユニットケアを学ぶ。介護老人保健施設では、特殊性である（介護保険入所サービスを含む）軽度医療・看護の管理を必要として、介護保険上のリハビリテーションを受ける高齢者の理解が出来る。多様な施設を利用する高齢者の健康課題や福祉の観点からのニーズを把握し、個性の尊重、自立支援、QOLの向上を目指した生活援助、高齢者の尊厳に配慮した援助を実践する。また、高齢者に関する専門職の役割と連携の必要性や、看護の役割について理解する。併せて、施設が提供するショートステイ(地域包括ケア) 利用者の実習を通して看護と介護の連携の実践も学ぶ。高齢者終末期看護・介護の「施設の看取りケア」を学ぶ。

【到達目標】

1. 施設を利用している高齢者を取り巻く環境（施設の特徴・生活環境）を理解する。
2. 老化に伴う身体的・心理的・霊的・社会的特徴を理解し、生活機能のアセスメントができ、施設ケアプランを理解し、日常生活を送る上での困難さを理解する。
3. 日常生活上の困難状況に合わせて残存機能を生かした、科学的根拠ある援助の重要性を理解する。
4. 予測的・予防的看護の必要性を理解し、自立した生活を目指した援助、見守ることの大切さやQOLを考えた援助方法を理解する。
5. 高齢者の適応力低下による高齢者リスクを防ぐ為の安全性の配慮と事故防止の重要性を理解する。
6. 高齢者施設・病院の医療関連感染（HAI）について理解できる。
7. 日常生活を支える各職種間や関連各機関とのコラボレーションの機能と重要性を理解する。
8. 高齢者とのかかわりを多く持ち、看護者に求められる支援を考えることが出来る。
9. 高齢者の終末期看護として「施設の看取りケア」を学ぶ。

【授業計画・内容】

実習の詳細は「平成30年度老年看護学福祉実習要項」に基づく。施設別の週案の学習目標に基づく。

【授業実施方法】

臨地実習を行う。帰学日と学内まとめ日で学修する。「平成30年度老年看護学福祉実習要項」を指導計画としている。

【授業準備】

既習の知識以外も活用し柔軟に対応し学びを深めて下さい。又、安全・安楽な援助を行うために、看護技術の復習を行い、自信をもって援助できるように繰り返し練習して下さい。高齢者の立場に立ち、対応できる態度を持ちましょう。

【主な関連する科目】

「老年看護学概論」「エイジング論」「老年看護学方法論Ⅰ」「老年看護学方法論Ⅱ」「病態治療学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（精神科）」「保健・医療と法律」

【教科書等】

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 第8版, 医学書院, 2017
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 第4版, 医学書院, 2016

【参考文献】

必要時、実習内で提示する

【成績評価方法】

実習状況・実習記録（事前・事後学習を含む）85%、実習態度5%、終了後の課題10%、による総合評価とする。

【学生へのメッセージ】

高齢者の言葉や心に関心を寄せて、高齢者の安寧のためのケアを考えていきましょう。事前学習を行い、施設の多くの職種ケア者から学ぶ姿勢を持つことが、学習の力に代えられます。